

執筆者 住中 光夫
システムリサーチ&
コンサルト株式会社
代表取締役



マイクロソフトのセミナーでは、多数の講師陣の中から3回連続で受講者より1の評価を受けている。企業研修、書籍の執筆など、Officeソフトにかかわる多方面で活躍中。www.suminaka.comも要チェック!

4号連続
特別企画

知って納得! 第4回

Office活用セミナー

マイクロソフト社セミナーで大人気! Office 指南のカリスマ・住中先生が、パソコンをビジネスに活かすための心構えをわかりやすく解説する!!

パソコンの中に真実はない あるのは事実だけである

「真実」はどこに?

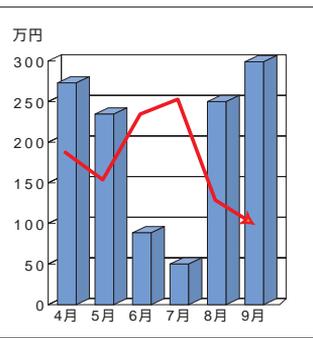
パソコンの中に「真実」はありません。あるのは「事実」のみです。

何が何個売れたという事実はありません。しかし、なぜ売れたのか売れなかったのかという真実はありません。

真実は「人の頭の中」にあります。経験 という中に隠されています。

ある家電メーカー営業マンの、Excelを利用してデータ分析の勉強会の時でした。

その家電のとある販売店の、4月から9月までの売上げを分析し、グラフにしました。そうすると左図の棒グラフの



ようになりました。

ひと目見ておかしいと思い

ました。なぜなら一般的に家電は、折れ線グラフのように、3、4月の移動期と6、7月のボーナス期に売れるのです。

私は門外漢のため、この店の棒グラフの6月と7月が落ちた事実と、8、9月に伸びた事実はわかります。しかし、なぜ落ちたのか、また伸びたのかはわかりません。そこで、この店の担当営業にその訳をたずねました。

彼は、「あ、それはですね」と言っただけで原因を説明してくれませんでした。その販売店の主人が、6月に病気になり入院され、奥様も看病で仕事どころではなかったそうです。

ご主人が7月下旬に回復されて、ボーナス商戦を取り戻すように8、9月と二人でがんばった……とのこと。

そうです、「真実」は彼の経験として頭の中にあったのです。

パソコンの中には、単にテレビが何台、冷蔵庫が何台売れたという「事実」しか入っていないのです。

経験と勘こそが重要

Excelで立体棒グラフを作成しようとすると誰でも2〜3ステップ位で作成できます。しかし、もはやグラフを作成すること自体に何も意味はないのです。グラフを読んで、その裏にある真実や課題を探り出し、そして行動を起こすこと、このことにしか情報活用の意義はないのです。

これからのOfficeソフトの有効活用には、豊富な業務知識や経験、そして日頃の仕事をみる目や考え方がより重要な力になります。真実は、何時も「人の中」にあるのです。

その時に重要になるのが、ビジネスの現場での経験と勘です。グラフのデータの裏やデータが出た背景を知るのには、現場での経験といえます。

21世紀のネットワーク時代に必要なのは、アナログな知識であり、豊富な経験。デジタルはアナログの影。アナログがあつてこそそのデジタルなのです。

これからのOfficeソフトの有効活用には、豊富な業務知識や経験、そして日頃の仕事をみる目や考え方がより重要な力になります。真実は、何時も「人の中」にあるのです。

真実はどこに?

